

# 「地方創生プロジェクト

～岩手・盛岡に国内外からより多くの観光客を呼び込むために」

学校名	岩手県立盛岡商業高等学校
-----	--------------

## 1 事業目的

地方の人口減少は消費市場の規模を縮小させ地域経済に深刻な影響を及ぼしている。その対策として地方の定住人口や交流人口を増やす施策は、国・県・市町村レベルにおいてこれまで様々な施策を講じてきている。

このような状況下、岩手・盛岡地域の次代の発展を担う本校生徒が、地元の観光資源や物産・サービス等について深く学び、その魅力と課題を理解することによって、いかにすれば国内外より多くの観光客を呼び込み、地域経済の活性化を図れるかを考える力を養う。

## 2 今年度の事業内容と振り返り

1学年の「総合的な学習の時間」を核に「情報処理」などの授業及び夏休みを利用して実施した。

### (1) 外部講師による講話

まず、現状を把握するために外部講師による講話を開催した。4月下旬から5月にかけて「盛岡さんさ踊りの魅力」、「盛岡の観光の現状」、「盛岡再発見～地元学のすすめ」、「いわての観光と物産～国際戦略ビジョン」の4回シリーズで、また夏休み後には、「南部美人の挑戦～世界を変革するのは若者の情熱しかない」と題して、それぞれの専門家よりお話を伺った。

### (2) 事業所訪問によるインタビュー調査（フィールドワーク）

次に、生徒が観光関連事業所等にアポイントメントを取り、夏休みを利用して36事業所を訪問し、事業内容や課題をインタビューした。

訪問先を決めるために教員側で各クラスにおよそ15の事業所・団体を紹介した。各班ではアポを頂くために電話で主旨を説明した。1回で受け入れをして頂いた班が大方であったが、中には2回、3回と断られる班もあった。事はスムーズに進まないことがあることを学んだようだ。

事前に当日のスケジュールや役割分担（インタビューする人、写真撮影する人）をして臨んだ。これもほとんどの班は、うまく進めることができた。中には、日程の変更や訪問人数の制限で調整する班もあり、その対処も勉強になったと感じている。



### (3) フィールドワーク報告会と個人新聞づくり

事業所訪問直後、インタビューの内容を共有するために報告会を開催した。また、自分たちの取り組みを外部に発信するために本校の文化祭で個人新聞を展示した。

報告会は、1学年で3時間実施し、それぞれの事業所・団体の課題を中心に班の代表者が口頭のみで発表した。発表の仕方には稚拙なところはあったが、課題等の共有を図ることができ、有意義であった。

個人新聞は、盛商祭で事業所別に展示した。年度末には、製本することを考えても原則ワープロを使用することとしたが、ワープロは、タッチメソッドと多少の早打ち（速度入力）の練習しかしておらず、作成については、全学科とも非常に時間を要した。しかし、苦労は多かったものの展示に間に合わせることができ、そして、見てくださった方の中に「1年生で、ここまで作ることは、素晴らしい。」というお褒めの言葉を頂いたことは、光栄であった。

